

# 献辞

稲田義久先生は、1995年の甲南大学経済学部ご着任以来、26年間の長きにわたり本学において教鞭を執られてきましたが、2021年3月をもって定年退職を迎えられることになりました。

稲田先生は1976年3月に神戸大学経済学部を卒業後、神戸大学大学院経済学研究科経済学・経済政策専攻博士前期課程に進学され、1978年3月に同課程を修了、さらに神戸大学大学院経済学研究科経済学・経済政策専攻博士後期課程に進まれ、1981年3月に同課程を単位取得退学されました。その後、稲田先生は1981年4月に神戸学院大学経済学部講師に着任され、1984年に同学部助教授に昇任、1992年4月に立命館大学経済学部助教授に着任され、同年同月に神戸大学より博士（経済学）の学位を授与されました。稲田先生は1995年4月に甲南大学経済学部教授に着任されました。

稲田先生は、1985年から翌86年にわたって、アメリカのペンシルバニア大学に留学し、ノーベル経済学賞を受賞したローレンス・R・クライン（Lawrence R. Klein）教授から多大な薫陶を受けられました。そして稲田先生は、クライン教授が提案した超短期予測モデル（Current Quarter Model forecasting, CQM）を多様な分野に応用されました。稲田先生はまず、日本経済のマクロ計量モデル研究の財政部門を強化すべく、社会保障と経済成長の関係が分析可能となるように、社会保障部門を完備した成長モデルを開発され、続いて、世界を貿易マトリクスでリンクするPCで動く世界計量モデルの開発・展開を行われました。

稲田先生は、1993年以降現在に至るまで、日本経済に関するCQM予測を原則週次ベースで行い、そのレポートを公表され、日本経済CQMを確立されました。さらに稲田先生は、環境経済分析に研究領域を拡充され、マクロ

計量モデルをエネルギー・環境部門を組み込んだ3E (Economy-Energy-Environment) モデルに拡張し、様々な環境問題分析に応用されました。その後、稲田先生は関西経済予測モデルを開発し、日本経済予測と連動した定期的予測を行われました。このモデルにより、域内総生産 (GRP) データが GDP の発表とほぼ同じタイミングで利用可能となり、広島県の GRP 早期推計では稲田先生の手法が採用されています。

高い学識に支えられた、公平かつ寛容なご人徳をもって、稲田先生は本学での教育活動に力を尽くし、学生からの高い信望を得られました。稲田先生は、「入門マクロ経済学」、「上級マクロ経済学Ⅱ」、「現代アメリカ経済」等の講義科目を担当され、そのいずれにおいても、専門分野における最先端の研究成果を取り入れ、学識の高さが滲み出るとともに、学生の理解や関心に配慮した講義を行われ、専門的知識の向上に導かれました。また、稲田先生は、関西経済をゼミのテーマに取り上げ、地域経済の重要な諸問題を本格的に学ぶ貴重な機会を学生に提供されました。稲田先生の的確な指導の下で、ゼミ生達は専門的知識やプレゼンテーション能力を着実に高め、インナーゼミナール大会 (経済学部のゼミ研究発表会) において、すぐれた研究発表を行いました。

稲田先生は本学において数々の役職や委員を歴任され、その発展に多大な貢献を果たされました。稲田先生は、2007年4月より2009年3月まで経済学部長と大学院社会科学研究科経済学専攻主任、2008年4月より2009年3月まで大学院社会科学研究科長を務められ、高いリーダーシップを発揮されました。さらに稲田先生は、学長補佐 (2010年4月～2012年3月)、フロンティア研究推進機構長 (2010年4月～2012年3月)、副学長 (2014年8月～2018年9月)、学長室長 (2015年6月～2018年9月)、総合研究所長 (2018年4月～2020年3月) を歴任され、名実ともに教学の要となつて、変化の激しい時代

の大学運営のために力を尽くされました。

また稲田先生は、甲南学園の理事（2007年4月～2009年3月，2014年10月～2018年9月〔常任〕）と評議員（2007年4月～2009年3月，2014年10月～2018年9月）を務められました。

以上のように、稲田義久先生は研究・教育・行政の各方面において尊敬措く能わざる多大な功績を本学に残されました。ここに本記念号を捧げ、稲田先生のご貢献に深い謝意を表しますとともに、先生のご多幸を祈念いたします。

2021年3月

甲南大学経済学部長／甲南大学経済学会評議員長 岡田元浩